

令和4年度 第1回

四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会 議事要旨

## 開催概要

日 時	令和4年6月22日(水) 10:00~12:00
場 所	四万十町役場 西庁舎3階「防災対策室」
次 第	1. 開会 2. 挨拶 3. 議事 (1) 窪川地域中心市街地活性化計画の一部変更及び今後の方向性について (2) 令和4年度まちなか再生支援事業の取組みについて (3) 10月の役員改選について (4) 前回の要望等について 4. その他 5. 閉会
配布資料	・ 令和4年度 第1回 四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会 次第 ・ 四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会 委員名簿 ・ 四万十町窪川地域中心市街地活性化協議会設置要綱 ・ 四万十町窪川地域中心市街地活性化計画 ・ 四万十町窪川地域中心市街地活性化計画修正案 ・ 四万十町・窪川まちの戦略ガイドブック ・ 四万十町まちなか再生支援事業の取組みについて ・ くぼかわ街歩き MAP 看板の移設について ・ くぼかわ街歩き MAP
出席者 ※敬称略	武田 秀義(四万十町商工会 会長) 池田 十三生(一般社団法人四万十町観光協会 会長) 窪 博正(岩本寺住職/しまんと街おこし応援団 団長) 森 武士(四万十町 副町長) 吉岡 真佐人(株式会社四万十交通 代表取締役) 百田 幸生(株式会社高知銀行 窪川支店長) 橋本 順一(窪川街分区長会 会長) 浅野 尊子(高知県産業振興推進部 地域産業振興監[高幡地域担当]) 宮地 宮(高知県商工労働部経営支援課 課長)
欠席者 ※敬称略	八木 雅昭(社会福祉法人しまんと町社会福祉協議会 会長) 河野 栄二(窪川中学校PTA 会長) 山岡 義正(有限会社山岡商店 代表取締役)
オブザーバー	三浦 丈典(令和3年度まちなか再生支援事業受託事業 まちなか再生プロデューサー:株式会社スターパイロッツ) 田辺 章二(四万十町商工会 事務局長)
事務局	小笹 義博(にぎわい創出課 課長) 佐竹 仁美(にぎわい創出課 副課長) 田中 淳一郎(にぎわい創出課 係長) 谷岡 美希(にぎわい創出課 主幹)

## 協議概要

### 1. 開会

委員 12 名中 9 名の出席により会議が成立することを報告し、開会を宣言。

### 2. 挨拶

武田会長

おはようございます。自己紹介と併せてご挨拶をさせていただきます。四万十町商工会会長の武田秀義と申します。第一回の中心市街地の協議会ということで、ご案内をさせていただきました。大変お忙しい中をお集まりいただきまして誠にありがとうございます。今日は協議の内容からみなさんの活発なご意見をよろしく願いしたしまして、簡単ではありますがご挨拶とさせていただきます。今日はどうかよろしく申し上げます。

※各委員より自己紹介

### 3. 議事

#### (1) 窪川地域中心市街地活性化計画の一部変更及び今後の方向性について

※資料「四万十町・窪川まちの戦略ガイドブック」「四万十町窪川地域中心市街地活性化計画修正案」

武田会長

それでは議事に移りたいと思う。次第にある窪川地区活性化計画一部変更と今後の方向性となっているが、事務局から説明をお願いしたい。

事務局

この計画は令和元年度に策定し今年で 3 年目の計画になる。昨年度はコロナの影響で協議会がなかなか開催できなかったが、年度末の 3 月 28 日に開催をし、この冊子を配らせていただいた。この会で丁寧に説明をさせていただきたい。

<まちなか再生プロデューサー三浦氏より戦略冊子の説明>

三浦氏  
(まちなか再生  
プロデューサー)

昨年度この四万十町窪川まちの戦略づくりという業務を受託し、1 年かけてまとめあげたものがこちらの冊子になる。観光ガイドのように見えるが、主に事業をやられている方、あるいは役場で働かれていてすでにお仕事されている方、つまり今やっている事業に対して今後の指針のようなガイドラインを作りたいという思いで作らせていただいた。そのため、これを守らなければいけないといった強制するものでもなく、これに沿ってやっていくといろいろな事がうまくいきますよ、うまくいく可能性が上がりますよというための戦いを略すと書いて戦略のガイドブックを作らせていただいた。全部で 18 ページあるが、簡単に説明させていただきます。

まず 1、2 ページ目。何が書いてあるかと言うと、2008 年をピークに日本の人口がぐっと上っていったところがジェットコースターの下り坂のように下がっていくわけですが、かつての高度成長期というのは、大都市東京や大阪みたいなところに追いつけといった感じで地方の小さな町が追いかけていくような構図だった。つまり大都市が時代の先取りをしていて、地方都市がそれを追いかけると

いう構図であったが、2008年以降、窪川はもっと早く縮退が始まっており、日本全体として縮退が始まった2008年以降というのは、つまり大都市よりも地方都市の方が人口減、縮退が早く進んでいるので、時間軸としては先取りをしているとなる。そのため、これから大きい街を真似て何かをしていてもうまくいくはずがなく、小さな都市ほど新しい豊かさや暮らし方を切り開いていかないといけないという責任と楽しさがあるということを平たく言うと言っている。

続いて、3、4ページ目。これからお金と人がどんどん限られていく時代である。昔は人もお金も余っていたのでいろんなことができたが、なかなかそういうことが厳しい時代に差し掛かっている。左側の「これまで」という図は、例えば何か自分のお店で物を作って売ろうとしたときに、なるべくたくさんの人に買って買ってもらうように一生懸命宣伝したり、営業に行ったりするわけですが、そのときの「みんな」というのがわりと分かりやすかった。何かがあればみんな幸せだっという時代は、それを作ればそれを与えるとみんな幸せになれるといったそういう分かりやすさがあったが、「これから」というところにも書いているように、「これから」はそれぞれの人によって趣味も価値観も暮らし方も全然違うため、ただでさえお金も時間もないときにその全員に好かれようと思って全員に欲しいと思われるものをつくるというのは、かなり厳しい難しい時代になってきている。

そして、象徴的なのが行政サービスであり、とにかく公平にいろんな人に公共サービスをというのが今なかなか厳しい状況で、そういうことに象徴されるようなすべての人に好かれようとか、すべての人に求められるものを作ろうということをやっていくと、結局誰からも何か違うんだよなということになってしまうことに対して、この「これから」のこの図は何かというと、例えば10人の中のたった1人から「すごい」「最高だ」と思われるものをまず作りましょう。そして、それによって僕らは「ファン」と呼んでいるが、このファンが「これっていいんだよ」と自分の友達や知り合いに伝える。またはSNSかもしれない。そうするとそのお店の本人が伝えるよりも、そのユーザーが口コミで広がった方が実はかなりの効果があるといった実験結果も出ている。そのため、10人に好かれようとせずたった1人に深く好かれるようなものを作ると、うまくいく時代になりましたということを書いている。実はこれは全然目新しいことではなく、ビジネスの世界ではもうだいぶ前から言われていることである。それを都市経営に転用するというのがこのガイドブックの大きな特徴である。

続いて5～6ページ目。昨年この窪川エリアで何をしたかと言うと、まずとにかく実際にまちで生活している、まちで働いている人たちに、まちの要素、気になるものや好きなものを出してもらい、窪川のこういうところが好き、こういうところが気になるというものが何かということ洗いざらい出してもらった。その例が右側6ページに書いているが、全体的な印象として、四万十町と言うと四万十川の美しさといったイメージがあるが、実際住んでいる人たちは「食べ物

が美味しい」「あその山でこういう遊びをするのが楽しい」「あその居酒屋や喫茶店が面白い」といったことが多く、いわゆる観光のイメージと実際のまちのイメージはなかなか違うなあということが分かった。

続いて7~8ページ目。その500個以上の要素をすべてリスト化した。それを全部暗記することはできないため、大きく5つのキーワードに分けた。ほとんどの要素がこの5つに集約とまではいかないが、だいたいこの5つに多く含まれる。これが窪川の魅力であり個性であるということである。「山から海までの、多様な風景の楽しみ方」「四万十川だけじゃない川の恵み」「町民御用達！流行に左右されない顔の見えるお店」「牛豚鶏、米、野菜が何でもそろそろ食材の宝庫」「丁度よいまち的な気風と基盤」こういったことが、この5つがすごく簡単にいうと窪川の個性であり、良さですよということである。先ほど10人のうち1人に愛されれば極端に言うといいんですと言うときに、こんな魅力的なこの5つのキーワードのある窪川をすごく好きになるファンの人たちというのは例えばどんな人なんだろうということを想定するところから始めます。

続いて9~10ページを見ていただき、そういう5つのキーワードを好きな窪川のコアなファンっていうのが、大体この下に書いてある6つほどの個性、キャラクターを持っている人が、窪川を好きになるのだろうと。

「食への情熱強め」食いしん坊であったり、美味しい食材に興味がある。

「買う/選ぶより作るやってみる」流行りのブランドやチェーン店というよりは、何か自分で作ってみよう、自分でやってみようということが好き。

「好きなことは本気で極めるし、応援する」極めている人たちをすごく応援するという特性のある人たち。

「そこにある自然を楽しむ」例えば山でも川でも海でも、自分なりにあそこに行っておあいうことをして遊ぶといったことを発明するのがすごく上手、楽しむのが上手。

「結果的に多趣味」話を聞いていると、“実は趣味はこういうこと持っていて”という人たちがすごく多く、僕らからすると“そんな充実した私生活を送ってるんですか”といった人たちが非常に多いと感じた。

最後に「上機嫌に集う、お酒の場が好き」特にお酒が飲めなくても、みんなと集まって動いてしゃべりながら飲むことが好き。そういった場の雰囲気が好き。こういった特徴を持っている人たち、年齢や性別、住んでいる場所に関係なく、こんな特徴を持っている人たちが恐らく窪川のファンになるであろう、人であろうと。

この6つは、ビジネスをする方は是非覚えていただきたいキーワードであるが、なかなかそれも大変であるため、一言であだ名のようなものを付けるとこの右側にあるように「まち・食・自然を楽しむ、しまんと探検隊」と勝手に名付けた。これは特に決まったものではなく、一言で言うとおくと後でいろいろ使いやすい、思い出しやすいためである。ちなみにいろんな街でこういうことをしているが、

このファンのキャラクターというのは街によって全然変わる。

続いて11~12ページ。これもマーケティングではよくやるが、ポジショニングマップというもの。ポジショニングマップというのは、高知に観光に来る、あるいは高知に移住する、高知で働くといったときに、我々は常にいろんな自治体あるいは場所と比べられる。そういったときに、自分は今どこにいるのか、また、それをどこを目指していくべきなのかということを冷静にしておく、余計な苦勞をしなくてもよく、迷った時に指針になることはある。ここで、縦軸と横軸の取り方が非常に難しくかつ重要であるが、例えば左のグラフで言うと、『食と生産とまち的要素』による差別化」と書いているが、縦軸が「食の生産」でマイナス方向が「食の消費」。横軸が、左側が「漁村・農村ロードサイド」であり、わりと単一的な機能のエリアである。右側の「まち」というのがいろんな複合的な要素が共存していて、例えば食の消費が一番強く、まち的要素が強いのがイオンモールや蔦屋書店である。四万十町、特に窪川はかなり食の生産でありながら、まち的要素も少し残っているが土佐市、須崎市ほどではないといった場所にいるのが現状である。この分布を見ると、右上がかなりライバルが少ないのが分かる。そこに移行することによって勝ちやすいということになる。

先ほどの5つのキーワードの最後に「ちょうど良い気風と基盤」とあったが、つまり、食の生産地でありながらまち的基盤を持っている場所というのは、窪川にしかないということである。このことから、何とかそういう要素を打ち出していきましょうというのがポジショニングマップである。

続いて右のページのマップで、縦軸がいわゆるチェーン店やパッケージ型ビジネスでマイナス方向が土着的生業。横軸が「際立つ魅力」で“この町と言えばこれだよ”といったキャラクターが強いまち。一方で「複合的魅力」。これも一番多いのはイオンモール高知と書いているが、高知市もこの位置となる。いろんなまち的魅力があるということ。高知県においては非常に豊かな場所であるため、“この町といえばこれだ！”といった際立つ魅力が結構ある。そのため、そこで頑張ってもその中の多数の中の1つになってしまう。しかし、高知市ほどではないまでも、“四万十町っていろいろあるよね。あれもこれも美味しいよね。一発狙いじゃなくて複数の魅力があることが四万十町の良さだよ”ということの方がライバルが少なく勝率が上がりますよという分析である。

残りわずかであるが、次は13~14ページ。では、具体的にこれからどうしていけばいいのかという話になるが、「クロスSWOT（スウォット）分析」という、自分のいいところ悪いところ、社会状況のいい所や悪い所などを分析していき、町がどういう優先順位でやっていくべきかということを考えるものである。簡単に言うと、表の中に1、2、3と書いてあるが、とにかく今あるもの、もっと具体的に言うと今あるお店で例を取ってみると、純喫茶や居酒屋なり、とにかく今あるお店はとことん守るということを最優先で取り組みましょう。そして、守るものを大事にしながら次にやるべきは「育てる」。今始めようとする人を全力

でサポートする、応援するということである。そして最後に「攻める」。戦略に基づき、“こういうことがきっと有効なはずだ”ということに対して攻める。この順番を誤ると、3番からやってしまうといつの間にか大事な1番、2番が倒れてしまうということになり兼ねないため、とにかく1、2、3の優先順位でやっていきましょうというのがこのクロススワット分析である。そして、窪川に当てはめてみると、1番は「多様な自然環境を楽しむプログラム」。2番は「まちの複合的な魅力を伝えるプログラム」。3番は「自然とまちの融合を売り込むプログラム」。何か抽象的な話に見えるが、15ページ、16ページを開いていただくと例えば、これが儲かる儲からないといった話は置いておいて、四万十町窪川で、もし新しいプログラム、まちらしいものを考えるとすると、とにかく四万十川一本！ではなくて、さまざまな自然環境を使ったいろんなプログラムというのが大事だよねと。2番目に大事なのは何度も言っているが、まち的な気風でそこにいいお店がたくさんあるため、とにかくそういったお店がみんなで盛り上がっていけるような、そういったプログラムを考えましょうと。そして最後に、それらがミックスして自然とまちが両方あることによってできるいろいろなビジネスチャンスをつかんでいきましょうということがこの1、2、3である。

最後になるが、とにかく僕らがいろいろな場所でこういうことをやっていくのは何かというと、ともすると行政がつくるまちづくりのゴールというのが非常に尊すぎて、それは誰も否定はしないけれども、では具体的に何をやったらいいの？あるいは、実際に普通の一商店のオーナーが売り上げが落ちて困っているときに、「自分はどうすればいいんだ」ということに対して、意外と支えにならないことが多い。だからこそ、これは新しい事業を始める人たちではなく今まきにお店をやっている人たちが、こういうお客さんに向けて“ちょっとだけメニューを変えよう”であったり“ちょっとだけ看板を変えよう”“ちょっとそういう人が喜ぶような企画を考えよう”といったことをやっていくと、いつの間にかそれがまち全体に広がっていき、結果、まちがよりキャラクターが鮮明になり、先ほどのポジショニングマップがじわじわ移動していくということが起こるということを実際僕らも見てきたので、窪川もそんなふうになればいいなと思っている。

最後に、それで「そんな空ごとをやってどうなる」「それを定量化して示せ」とよく言われるが、実際商店街の通行人数や路線価がいくら変わった、効果が出るというのはやはり5年から10年くらいかかる。一時的にイベントをやって通行人数が増えたということはあるがまた翌年どんと戻ってしまったりするため、僕たちはそういう指標を信用しておらず、それよりは、昨年度まちへの期待値・熱狂度アンケートというのをさせていただいたが、これも果たしてどの程度正確かは分からないが、窪川を友人知人にどの程度オススメしたいか、どんな気持ちで暮らしているか、ということの肯定的な意見が上向きだとすごくいい。これは絶対数ではなくて、増えているという状況がすごく大事であり、この戦略をで

できれば今年度来年度、より具体的に浸透させていくためにお手伝いしたいと思うが、結果的にこの赤やオレンジが増えていっている、ジワジワ増えていっているということを目標にお力添えできればと思っている。説明は以上である。ありがとうございました。

事務局 補足をさせていただくと、この冊子を作るにあたって昨年度 8 回、戦略会議という形でこちらに参加されていない 19 人の方にいろんな意見を伺って、それを聞いて三浦さんが作りあげたという形の戦略本になっている。これに基づいて今年度まちなか再生支援事業を実施していくことになるが、このことについて中心市街地とバラバラにやっていくということは役場としてはあり得ないと思っているため、この中心市街地活性化計画の中に位置付けさせていただきたいというのが今日の趣旨である。

森委員 要は今日議題として、窪川地域市街地活性化計画の一部変更という議案として挙げているが、その計画というのが第 1 章から第 3 章まで成り立っていて、特に第 3 章については課題解決に向けた基本方針というところが進行に挙げられており、それに基づいて事業の実施をしていくという立てりがあると理解している。そういった中で、先ほど三浦さんがご説明いただいたこうしたまちづくりの戦略、ようは理念、こういったものも基本方針を補うものとして位置付けるという理解でよろしいか。

事務局 そうです。

森委員 分かりました。

事務局 街おこし応援団さんもいろいろ頑張っていただいております、行政としてもいろいろ考え商工会と共にいろんな事業をやっているが、それだけでは足りないという部分も当然生じる。その部分について三浦さんのお力を借りて進めていきたいということである。

窪委員 前回の会でも言ったが、すり合わせがなされていないというか、三浦さんのこの戦略は素晴らしいものだと思うが、ただ我々がこれからこうしたいと思っていることと少し離れているところがあるのではないかとこのところがあり、それは別に我々が正しいとは思わないが、難しいと思う。  
やるのであればやはり三浦さんとしっかり連携をとって、三浦さんがやっていただけるのであれば、仲良くやっていくというのが一番いいと思っている。三浦さんは三浦さんで、我々は我々でという感じになるとこの戦略とまったく整わないことになるのではないかと思う。

武田会長 今このガイドブックの説明をいただいたが、要はこの戦略をこれから活性化協議会でこれから事業を進めていく上で、これを基本理念としてみなさんが協力し合いながらまちづくりを進めていこうということであると理解をしているがそれでよろしいか。



事務局	役場としては、この戦略に沿ったまちづくりをしていきたいと考えている。今年度はその具体的な事業に入りたい。
武田会長	今この冊子の説明を受けて私自身もこの戦略の考え方は素晴らしい、まちづくりをしていく上で当然この考え方は絶対必要であると感じている。それをみなさんと共有をした上で、次の事業内容や今後どう進めていくのかという議論に進んでいくと思うが、その前段でこのガイドブックが基本的な考え方となり、この中心市街地の委員のみなさんが、この考えのもとこれからもまちづくりを進めていくんだという理解でいいのかということを整理しておきたい。基本この考えでまちづくりをこれから進めていくという母体そのものの方が分かりやすいと思うが。
事務局	これを基にして進めていきたいと考えており、そのための具体策というものを今年度予算化している。このことについて若干の方向修正等この会でも図っていければありがたい。
武田会長	分かりました。それでは先ほど私が言ったように、そういった理念に沿ってこの中心商店街の活性化について検討していくという方向性ということで、理解をしていただきたいと思うがよろしいか。
百田委員	質問させていただきたい。どういったところに齟齬があるのか理解できていない。今回のこちらのパンフレットと街おこし応援団さんの方向性との齟齬というのは何なのか。
三浦氏 (まちなか再生 プロデューサー)	僕が発言する立場ではないかもしれないが、一番最初に言ったように、これを守ってください、これから窪川の人たちは全員この戦略に従ってくださいという話ではなく、これに気づいて、これのとおりにやったら上手くいったという人が増えていくと、“あの人はそういう風にやって上手くいったんだ、あの方法でうまくいったんだ。じゃあ僕も私もやってみようかな”という程度のものなので、これに従えないから降りるとか降りないという分断のためにつくったものではない。これがいいなと思う人が参考にする程度のものである。
窪委員	三浦さんの的には個々の事業者さんが上手くいくようにという思いで作られたものという理解でよろしいか。
三浦氏 (まちなか再生 プロデューサー)	そのとおりである。
窪委員	町の戦略というよりは、このまちで個々にいろんな事業者が現れてきて、事業者たちはこのような戦略でいけば、これからうまく事業が展開できますよねという話でよいか。

三浦氏 (まちなか再生 プロデューサー)	はい。同時に、この四万十町というのも一つの会社であることから、町の事業がこれにだんだん乗っていく方が町の経営はよくなりますよというアドバイスである。
窪委員	ちょっとそれが僕らの考えとは違っている。
武田会長	この内容について、まだみなさんの理解が深めれてないというところではあるが、これはあくまでも参考の資料であり、考え方の1つの参考と位置づけするのか、それともこの理念に沿ってやっていくのか、どういう扱いにしていくのかというところが一番問題になっているのではないかと思うが。
池田委員	参考ということであるが、内容の文面で6ページの左の下の方を見てもらうと、『興津小室の浜、海水浴場、キャンプ場』『夏に行っても人がほとんどいないが美しい砂浜のビーチ』とある。これはコロナで人を入れないようにしているだけのこと。次の7ページにいくと、上の方に窪川のキーワードで「四万十川だけではない」と書いてある。また下にも「四万十川だけじゃない」と書いてある。なぜ四万十川だけじゃないという書き方をしないといけないのか。ここは四万十川の流域の中にあるわけで、なぜ四万十川をのけるのか。四万十川の大きな恵みを受けて四万十町というのがあるわけで、四万十川の清流でお米が採れる。その恵みで鮎が捕れる。また、14ページにも青色の大きな字で書いた下のキーワードで設定した「山から海まで多様な風景と楽しみ方」「四万十川だけじゃない」と書かれている。これも気に入らない。なぜこのような書き方をするのか。四万十町は四万十川である。これが中心にしていかに人が繁栄してきたか、縄文時代から人が繁栄してきたか、そこをしっかりと捉えてこれからの先を進んでいくということにしてもらわないといけないと思う。
事務局	まず6ページの『夏に行っても人がほとんどいないが美しい砂浜のビーチ』っていうのは逆の意味である。あんなにきれいなのに、他の都会に近いところの海水浴場みたいに人がいないすごくきれいな砂浜が残っているから、これを活かしたらどうかという、これが好きだよという集まった人たちの意見である。ここは少し勘違いを生みやすいかもしれない。次に『四万十川だけじゃない』という表現だが、これも少し言葉表現が誤解されやすいが、要は先ほど言われたように、川を中心とした食文化であったり農業であったりいろんな文化ができていよと、なので、川だけではなくそれに基づいた文化がいろいろあるということをここでは言っている。
池田委員	そこで「だけじゃない」という言葉よりももっといい表現の仕方があったのではとこちらとしては言いたい。
窪委員	四万十川という川だけではなくて、他にもあるということをおっしゃりたいのでは。
事務局	鮎も当然恵みであるし、お米も恵みである。

窪委員	これだとぱっと見、四万十川だけではなくて他もあるように見える。
事務局	そういう捉え方もできるかもしれない。
池田委員	観光協会としても、四万十川を守っていっているという自負もあって、漁協の方から見ても、やはり四万十川だけじゃないという表現をされるのはまずいと思う。
武田会長	<p>その『四万十川だけじゃない』というのも、これも言葉尻の話でそれぞれの受け取り方がある。それを理解する側が理解をしてあげないとなかなか話が進まない。</p> <p>要は、この冊子の内容的は本当に素晴らしいと思う。みんながそれぞれにこういう考え方の下でまちづくりや自分のまちというものを見つめ直し、これからどうやっていけばいいんだろうという基本的な考え方としてはこれはいいのではないかと思う。やはり考え方が一定方向性を同じ方向の考え方を持っているということが大事である。応援団さんはそちらの理念を持ってやられてると思うし、方向性も持ってみなさんで意見を出し合い意思を統一して取り組んでおられると思うが、今ここに集まっているのは中心市街地活性化協議会ということで、みんなでいろんな知恵を出し合い、それぞれのいいところをコラボさせまちづくりを活性化していきましょうという話だと思うので、あまりこれにこだわる必要もないのかなと思う。ただこれを参考とし話を進めるのか今日は説明だけで終わりにするのか、これどう取り扱ったらいいのか。事務局としてもこれをあくまでも参考程度でいいのか。</p>
事務局	役場としても今日いただいたご意見も踏まえ、一旦持ち帰らせていただき、今日は説明にとどめるのみとさせていただくということによろしいか。
三浦氏 (まちなか再生 プロデューサー)	今日この表のここに位置付けるという話ではないのか。
事務局	位置づけたいと考えていたが、今日は、この場で決まらないと判断し一旦持ち帰らせていただき、次回の会でこの件について決定させていただきたい。
武田会長	みなさんそれでよろしいか。それでは次回の会までにみなさん再度読んでいただき、分からないところは事務局にも聞いていただいて理解を深めていただきたい。事務局としてはあくまでもこれを基に今後進めていきたいことでよろしいか。
事務局	はい。
森委員	提案内容がよく分からない。今日の議題として、窪川地域市街地活性化計画の一部変更という議案を挙げている。この配布されている変更後の資料についてきっちり説明いていただきたい。

事務局 前後して申し訳ありません。資料は計画を一部抜粋した修正案と書かれたものをご確認いただき説明させていただく。

現計画に定めている第3章の「課題の解消に向けた基本方針」については、「課題に対する基本方針を以下のとおり定め、取組を展開していきます。」と書かれている。そこに、今回具体的な取り組み方法として、この窪川まちづくり戦略に基づき、町や地域住民、事業者や商工業者さんが価値観や方向性を共有し、お互いに補完しながら魅力的なまちなかをつくっていきましょうよという所を修正案として書かせていただいている。

資料の裏面は今説明した内容を図で表すと、協議会の中に活性化計画がありその中の一部としてまちづくり戦略があるイメージである。それに基づいて各個別プロジェクトが進んでいくというイメージでの修正案とさせていただいている。

武田会長 このガイドブックの位置づけというのは、この資料14、16ページで記されておると。位置づけとしたら表の中の真ん中のまちづくり戦略というところにこれを位置付けたいという事務局の提案であるが、またこの件に関しては今日なかなか議論が進まないかもしれないのでこの件に関しては持ち帰りということによろしいか。

事務局 再度調整させていただく。

武田会長 持ち帰っていただいて、それぞれに協議をしていただいて、また次回にということをお願いをしたい。

事務局 町としても今回いろいろとご意見いただきました。またそれぞれでお考えのことがございましたら、是非役場の方まで届けていただきたい。役場としてもまたお話にも伺いたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

森委員 各委員さんもだいぶ変わっている。突然説明をしても経過をしっかりとっていないと理解しにくいと思う。百田支店長からも指摘も受けたように、やはり今日欠席もしている委員さんもいるので、そういったところを丁寧に説明をしていくということをお願いしたい。

武田会長 はい、それではどうしましょう。次の2番目、まちなか再生事業の取り組みについて令和4年度事業計画と概要説明とありますけど、順次説明だけはしておきますか。それとも次回にしますか。

事務局 今予定している事業があるため説明だけさせていただきたい。

武田会長 説明だけ受けたいと思うがみなさんよろしいか。はい、では続いて説明の方をよろしくお願ひしたい。

事務局	会長、三浦さんは説明のために来ていただいているので一旦ここで退席していただいでよろしいか。
武田会長	はい。
一同	ありがとうございました。
	<三浦氏退席>
武田会長	順次説明の方をよろしくお願ひしたい。
事務局	事業内容の説明の前に、まだ議題（1）の期間満了に伴う期間延長というのが残っている。その説明を先にさせていただきたい。計画が当初 1 ページ目の図の上側に、「本計画の計画期間は令和 2 年 4 月から令和 5 年 3 月までの 3 年間とします」とあり、この計画でいくと今年度いっぱいでの計画は終了となる。ただ、県の補助金が 2 年延長になるということをお伺いしており、それに伴い本計画も 2 年延長し令和 7 年 3 月までの 5 年間と修正させていただきたい。
武田会長	今事務局から説明があったが、本計画について今年度から 2 年間延長し令和 7 年度まで。事業をそのまま進めたいということであるが、よろしいか。 (意見なし)
武田会長	ではそういうことで決定する。
宮地委員	すいません。出戻りになって申し訳ないが、先ほど県の補助金が 2 年延びたという話があったが、その期間について県の方で確認させていただいてよろしいか。計画期間と補助期間とが連動するのであれば、もう一度こちらの方で尚確認させていただきたい。
武田会長	承知した。よろしくお願ひしたい。

## (2) 令和 4 年度まちなか再生支援事業の取組みについて

※事務局より資料「四万十町まちなか再生支援事業の取組み」についての説明。

事務局	資料裏側が今年度計画している事業内容になるが、今年度、すでに文化的施設の設計も進んでおりその文化的施設の建設に合わせて、この文化的施設とこのまちなかエリアが一体となるような仕組みづくりを進めていきたいと思っている。  今年度は三本柱で、今ある既存店舗の調査という形で (1) に位置付けさせていただいているが、主に飲食店さんを今年度はメインに、今後の展望や不安要素をヒアリングし、事業継続のための情報収集を行っていきたくと考えてい
-----	---

る。(2)の新規事業者発掘支援であるが、(1)のヒアリングでもし事業承継を希望している事業者がいて、そこで次やってみたいと思う方がいたらそこに繋げたい。また、新規でお店をやりたいという方やこのエリアで地域の人が応援したくなるような店舗や人というところを探していきたいと思っている。

最後に(3)の民間不動産オーナーの意識調査であるが、この中心市街地活性化計画にも課題として挙がっているが、このエリア内でも空き家や空き店舗が見えるようになっている。ただ空き家、空き店舗があったとしてもそこを貸していただけるか、それとも全く貸す気もなく売る気もないといった状況、情報が町としても全く把握ができていないため、いうところを確認し、もし新規で店舗をしたいという方がいらっしゃったときに、もし貸してもいいよという不動産、大家さんがいらっしゃったらそこと繋げるという所のまずは情報収集ということで今年は既存店舗の情報収集、新しい新規事業者がいるのかいないのか、あとはやりたいと思っても場所がないといけないので、そこをオーナーの意識調査という形で情報収集の3本柱でいきたいと思っている。

その際に、この戦略に基づいて進めたときに、ただ単にチェーン店のようなお店を増やすのではなく、コアなファンが好きそうなお店でこのエリアに資源として残したいと思うようなお店に出店いただきたいという思いがあるので、そこに戦略を乗せてこの事業を進めていきたいと思っている。

武田会長

こういった内容の事業を進めていきたいとの説明であるが、こういう内容でよろしいか。ご理解いただけたか。

(意見なし)

### (3) 10月の役員改選について

事務局

設置要綱の一番最後に「この要綱は令和元年10月17日から施行する」とあり、また要綱第8条には「委員の任期は3年とし」とある。令和元年から3年間となるため現委員さんの任期は令和4年10月16日までという形になる。また、本会の委員は20人以内となっており、現在12名。再任は妨げないともなっているのでそのまま継続していただきたいというところと、その他推薦者の方がいらっしゃいましたら、次回の会までに事務局の方にご連絡いただき次回の会で承認をいただくという流れでいきたい。

さらに事務局としては、このままですと10月16日という中途半端な時期に任期が終了となるため、一旦は今年度末まで延長させていただきたいというのが1点と、各委員の方については役職で就いている方もいらっしゃいますので、是非お願いしたいと思うが、再任を妨げないとなっているので、特に

	<p>民間の委員さんについては、意向を確認した上でお願いをしたい。このことについてご意見等伺いたい。</p>
武田会長	<p>役員の改選について、任期が10月の16日までとなっており、再任を妨げないとなっていることから現行の委員さんにおいては再任をしていただきたい。また新たにもっと委員を加えた方がいいのではないか、もっと広く意見を求めた方がいいのではないかといった推薦があれば推薦もしていただきたいという事務局の説明であったがよろしいか。承諾はまた後ほどかまわない。また事務局が確認にはお伺いすると思いますのでよろしくお願ひしたい。</p>
事務局	<p>確認させていただいて、次回で調整した名簿を提出させていただくのでそれをもって新たに加わる委員については承認いただきたい。</p>
武田会長	<p>それでよろしいか。 (意見なし) では役員改選については、ご理解していただいたということでもよろしくお願ひしたい。</p>

#### (4) 前回の要望等について

※資料「くぼかわ街歩き MAP 看板の移設について」「くぼかわ街歩き MAP」

事務局	<p>前回3月末の協議会でここにある2点について要望をいただいていた。特にまち歩きマップの看板については以前から要望が上がっており、危ないということで今回場所の変更を検討した。現在四万十交通さんの駅の真向かいに設置しているが、ここがまち歩き等でみなさんが集まって見る際に道路に膨れ上がって危ないという意見があり、移設先として駅を出て左側を向いた公衆トイレがある場所に、現在平成18年から飾ってある「美しい町づくり条例制定の町」という絵の場所に移してはどうかと考えている。この件については、応援団さんとも少し前に協議させていただいており、移動をお願いするという形で話ができています。</p>
武田会長	<p>この案内板については駅前1か所だけか。</p>
事務局	<p>現在は1か所のみである。</p>
武田会長	<p>せっかくなので半平の前やその他にあってもいいのではないかなと思うが。例えばみなくちの横の駐車場のところにも1つああった場所にあるというのもよく人が集まっていたりするのでもいいのではないかと。」予算の関係もあるかもしれないので、一か所にこだわらなくてもいいのではないかとという個人的な意見である。</p>

事務局	参考にさせていただく。
武田会長	続いて古書の置き場（遊休施設の利活用）について説明をお願いしたい。
事務局	現在、旧あさぎりを応援団さんに使っていただいているが、一旦そこを整理していただいているからというお話をさせていただいている。既に半分くらいは整理いただいているがもう少し残っている状態なので引き続き調整していく。
武田会長	よろしくをお願いしたい。以上で議事は終了とする。

#### 4. その他

池田委員	案内マップのことで以前にも何点かお願いをしていたが、1ヶ所、茂串山の『土佐山内家御所』について以前のままとなっている。何か意味はあるのか。窪川の山内さんの御所であるなら窪川山内家御所と表記すべき。尚調べていただきよかったら修正いただきたい。
事務局	あと呼坂の展望台も作ったので是非記入していただきたい。今度看板を直す際に一緒に修正してもらえれば。
武田会長	修正できるのであれば是非修正していただきたい。
窪委員	承知した。
武田会長	他に何か意見はないか。 <p style="text-align: center;">（意見なし）</p> 意見等無いようであれば以上で終了とする。 大変ご成熟もし、つたない進行でみなさんには大変ご迷惑をおかけした。 目的はみなさんととにかく同じだと、方向性を向いていると理解している。 みなさんもそれぞれにご意見等どんどんと事務局の方にお寄せをいただき、この中心商店街の活性化協議会が本当に軸がきくようにご協力いただいたと思うので今後ともよろしくをお願いしたい。それでは以上で終わりとする。 ありがとうございました。

以上